

錯誤

僕の忘れていたものは
映像だったろうか
僕を今、包み始めたのは
夜のしじまだったろうか

(ああ、光は流れてはいない)

僕を置き去りにしたものは
恋だったろうか
僕を今、迎えに来つつあるのも
その恋だったろうか

(ああ、白いテーブル、白い椅子)

祈りの中に^{うち}全ては殺され

思い出の前に^{おとし}全ては貶められ
遣された者が囁くものは
ただ、かすかな香りのみだったろうか

(ああ、^{いま}現在は辱められ)

僕はただ答える
「違う、そうじゃない」
残るものが一体あるのか
それさえ分からぬまま

(現れては消える、ただそれだけだ)

消える、消す
それは減ぶことではなく
沈めば沈むほど^{いま}現在を
喰い破り

(生きたいのかどうか、それさえ分からない)

抱くことだけしかできない
いずれにせよ
受け容れることしか許されぬ
我等には

(1989.9.9)